



能登の生き物調査速報とは？

2024年1月の能登半島地震と9月の豪雨により、能登の自然環境は大きな変化に直面しました。加えて、気温や海水温の上昇、冬季の寒波や豪雪など、気候変動の影響も年々顕著になっています。こうした環境変化の中で、生きものたちはどのように暮らしているのでしょうか。私たちは2023年から、能登半島沿岸の海を中心に、森・川・人里を含めた生物調査を続けてきました。2025年以降は全国の研究者と連携し、誰もが参加できる調査手法の確立と情報発信を通じて、生きものの記録と環境教育を進めています。

*本調査は石川県庁や環境省、そして地元漁業組合などを通して調査に必要な許可等を得て実施しています。

調査概要

<調査日程>

2025年6月24～27日

<調査メンバー> *所属と身分は調査当時のもの

豊田 賢治	(広島大学・助教)
森井 悠太	(弘前大学・准教授)
友井 拓実	(埼玉大学・博士研究員)
角田 啓斗	(金沢大学／広島大学・修士2年)
向田 ゆき子	(広島大学・研究生)
有村 拓真	(広島大学・学部4年)



写真1：今回の調査チーム

1. 深層水施設における深海プランクトン調査

能登町にある海洋深層水施設「あくあす能登」では、沖合の水深約 300 メートルから海水がくみ上げられています。このとき、目に見えないほど小さなプランクトンも一緒に運ばれてくるため、施設にはそれらを集めるフィルターが設置されています。今回も早朝に施設を訪れ、試料を採集しました。地上にいながら深い海の生きものを調べられる貴重な調査で、現在は詳しい分析を進めています。

2. 隆起砂浜の海浜昆虫調査

2024 年能登半島地震で約 4 m 隆起した輪島市門前の鹿磯海岸を対象に、海浜昆虫の調査を行いました。隆起によって新たに生まれた砂浜は、生きものの定着や遷移を調べる貴重な場です。陸生・水生昆虫を専門とする学生の協力を得て、2 地点で昆虫を採集・比較した結果、砂浜に想像以上に多くの昆虫が生息していることが分かりました。前回の調査に引き続き、今回は鹿磯海岸のみで海浜昆虫の採集調査を実施しました。また今回は陸生巻貝の研究者である森井悠太博士に同行いただいて、海沿いに自生する植物を注意深く観察し、カタツムリ類を探しました。探すと意外と発見できるもので、普段と少し視点をずらすだけで出会える生物がガラリと変わるのを実体験として感じることができました。



写真 2：海浜昆虫調査（鹿磯）

3. 隆起砂浜の海浜植物調査

海浜昆虫の調査と同じ鹿磯海岸にて、植物の調査を実施しました。能登半島地震の隆起によって新しく形成された「地上」はもともと海に沈んでいた岩礁や砂浜でした。これらが新しく陸地になったため、ここには新しく陸上の植物が生い茂るはずですが、植物の中には砂浜などの海岸に特化した海浜植物が優占して繁茂しますが、陸地が近い鹿磯海岸ではまず陸性の植物から侵入してくるのではないかと考えました。そして、その後から徐々に陸性から海浜性の植物に組成が変化していくと予想し、震災から 1 年半が経過したこのタイミングで植物の調査を始めました。今回は植物の研究者である友井拓実博士に同行いただいて、(1) もともとの砂浜エリア（現在はかなり陸地側になっている）、

(2) 隆起によって形成された新しい砂浜、(3) 隆起によって形成された岩礁帯の3地点に分けて生えている植物全ての同定を試みました。この調査では32種の植物が観察され、海浜性種はもちろんのこと、荒地や山野に生育する種も見つかりました。これからの継続調査でこれらの植物の組成がどのように変わっていくのかとても気になります。



写真3：植物の調査（鹿磯）

<謝辞>

深海プランクトン調査にあたっては、海洋深層水施設「あくあす能登」のご協力をいただきました。本研究は、黒潮生物研究所研究助成（代表：角田）、公益信託ミキモト海洋生態研究助成基金（代表：豊田）、タカラ・ハーモニストファンド助成事業（代表：豊田）、ならびに2025年度金沢大学環日本海域環境研究センター共同研究（採択番号：25033、代表：豊田）の支援を受けて実施されました。

<問い合わせ先>

我々の活動に関するお問い合わせは以下までお願いいたします。

- ・氏名：豊田賢治（広島大学大学院統合生命科学研究科・准教授）
- ・研究室 HP: <https://sites.google.com/site/toyotadaphnia/>
- ・Email: toyotak@hiroshima-u.ac.jp

